

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林障害者福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会
3	指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 人 (前年度比〇〇%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 3,527人 (前年度比 69.2%) ・平成30年度 5,094人 (前年度比 87.3%) ・平成29年度 5,836人 (前年度比 98.8%) <p>《事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○貸館事業：障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理
5	収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者に支払った費用 24,156千円 (23,527千円) ・その他市が負担した費用 1,312千円 (471千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用料収入 0千円 (0千円) ・その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <p>利用者アンケートは平成20年度から実施。今年度の回答件数は71件。挨拶、対応、説明、身だしなみ、清潔さ、印象の6項目について5段階評価。全項目とも平均4点を上回り、高い評価であった。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	<p>協定及び仕様書に則った管理運営がなされている。条例に基づいた形でセンター独自の基本方針、職員の倫理要領が策定されており、施設内への掲示や所内研修、センター内他法人との合同会議等において職員間、事業者間で共有が図られている。</p> <p>近隣学校への福祉学習講座、実習生の受入れ、センター祭りを開催し、障害の有無に関わらず参加できるよう呼びかけ、障害福祉の啓発や相互理解に努めている。</p>	24/24
II 施設の運営管理体制	<p>ミーティングや会議を通じて、センター全体で職員の業務状況を共有し、適切な運営が行われている。個人情報や情報セキュリティについても、研修や基本事項を事務室に掲示する等、職員への周知を図っている。</p> <p>事故防止への取組みについては、マニュアルの適宜更新、ヒヤリハット集の共有など、適切に実施している。</p>	30/30
III 施設・設備の維持管理	<p>清掃委託業者のみならず、職員も日常的な清掃の外、建物の目視確認を行い、安全と清潔を保持できるよう取り組んでいる。</p> <p>また、仙台市環境行動計画を基に節電、節水、ごみ削減等に取り組むよう職員・利用者へ周知し、環境に配慮した取組みを実施している。</p>	24/24
IV サービスの質の向上	<p>全職員を対象に外部講師による接客研修等を通して接客マナーの向上に努めている。利用者アンケートでも全ての項目において平均4点(満足)以上と高い評価を得ている。</p> <p>事務室前に受付表示を作成している外、呼び鈴を設置し職員がすぐに来館者に気付き対応できるよう工夫している。地域の小学生用の施設説明資料を作成したり、各種広報誌やチラシ等にはふり仮名をふるなど、利用者にとってわかりやすい情報提供ができるよう努めている。</p>	28/28
V 施設固有の基準	<p>日常的に敷地内の点字ブロックや通路、避難経路等を点検・記録し、利用者にとって利用しやすくなるよう、施設の維持管理を行っている。</p> <p>センターまつりや創作教室等の実施については、障害の有無に関わらず参加を受け付けており、相互交流の場として活用している。講習会の実施にあたっては、アンケート等でニーズを把握したうえで企画している。近隣小中学校の施設見学の受入れを含め、近隣町内や市民センター等へ幅広く啓発活動を行なっている。</p>	9/9

三 評価総括

《指定管理者（仙台市障害者福祉協会）による自己評価》
<p>仙台市若林障害者福祉センターでは、指定管理期間の5年目にあたる平成31年度は、障害者福祉の拠点としての役割を果たすため、指定管理者事業計画書に基づいた以下の事業を、入居4法人、センター近隣の3町内会、関係機関と連携して取り組んだ。</p> <p>利用者本位で実現性の高い事業計画では、在宅障害者・一般市民向け事業のボッチャ教室に参加した4名の障害者は、その後にボッチャ若林区民大会への出場に加え、当センター自立訓練（機能訓練）事業利用者とのボッチャの交流試合を行う等、活動の活性化に繋がった。また、毎年七夕飾りを寄贈していただいている貸館利用団体に七夕飾り教室の講師を依頼し、利用者間交流を実施した。</p> <p>地域、関係団体・機関との関わり方や取組みでは、民生委員児童委員との情報交換会（年2回、延べ13名）、センター祭り開催（来場者数180名）、若林区民ふるさと祭り・ウエルフェアへの参加、小学校4校への福祉学習（児童延べ369名）、中学校3校（生徒延べ6名）の職場体験受け入れ、宮城県社交飲食新聞への記事掲載を通して、障害理解、合理的配慮の提供、及び当センターについて広く周知した。尚、当該記事掲載は、当協会の総合力を生かして仙台市障害者就労支援センターと連携して実施した。</p> <p>地域防災に関する取り組みでは、遠見塚小学校区防災訓練と共催で、福祉避難所開設訓練を実施した。台風19号の折には、福祉避難所開設の準備を整え、夜間から翌朝にかけて職員2名が待機し、仙台市災害対策本部、及び当法人内で情報共有を実施した。</p> <p>貸館事業では、貸館利用団体向けに当センター職員による講座（年3回）を開催に加え、仙台市消費生活センターの防犯講座（年1回）、若林区保健福祉センターの健康講座（年2回）を開催した。</p> <p>次年度においても、障害者福祉の地域拠点機能を担い、災害時には福祉避難所を運営できるよう役割を果たしていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設内の他法人との連携を図りながら、協定書及び仕様書に基づいた適切な施設の管理運営がなされている。センター内にとどまらず、町内会や民生委員、近隣学校との連携を図りながら、地域住民を広く対象とした各種講座やイベントの開催、出前講座、実習生の受入れを通して、障害者福祉の普及啓発に努めており、地域の障害者福祉の拠点施設としての役割を果たしていると高く評価できる。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課